

平成25年度理科教育にかかわる現状と課題

部長 袖山 兼一

1 理科教育の動向

(1) 授業研究の充実

平成25年度は18地区から活動報告が寄せられた。新潟市をはじめ、上越、妙高、村上、五泉など13地区で授業研究を基に実践研究が行われている。

研究主題としては「科学的な見方・考え方を高める」「自ら考える」「表現力を育む」「生き生きと活動する」など、これまでのテーマに「表現力」が加わっている。

新潟市地区では「事象の比較」に重点をおき、各ブロックで計6回の授業研究を実施していた。比較とは「事象A」に対し、比較対象として「事象A'」を与えることで、比較の観点や差異点を明確にさせようとしている。

長岡市三島地区では協同テーマ「小・中を通して理科に親しむ子どもの育成」のもと、小・中学校の合同研究が進められている。年3回の授業研究では、理科における小・中のギャップをなくし、一貫して理科好きな子どもを育てるために、お互いに求められる授業改善を図っている。

糸魚川地区でも「見つめ、確かめ、自ら考える理科学習をめざして」をテーマに小・中学校の職員合同で授業力の向上を図るよう研修している。

(2) 個人研修の充実

個々の研究をレポートにまとめ、持ち寄り、情報交換している地区も多い。柏崎刈羽地区では、第42集「現場が生んだ理科指導の工夫」を発刊し、個々の研修成果を相互に積極的に交換している。

(3) 野外研修会・教材研究の充実

地域の特色ある自然に親しみ、学習指導に役立てようと、野外研修会や教材研究が盛んに開催されている。地区理科教育センター所員や地域の自然研究者から、専門的な知識や技能を得ている。教科の特性である「物理・化学・生物・地学」といった幅広い内容をカバーするには、地区理科教育センター等との連携が不可欠になっている。

(4) 理科講演会の充実

理科の観点が「思考・判断」から「思考・判断・表現」となったことを受けて、現行学習指導要領の主旨をより徹底する「伝達講習会」「講演会」が多く実施されている。

村上地区では、筑波大学教官 森田和良先生の師範授業を実施している。燕市西蒲地区では、新潟大学附属長岡小主幹教諭 相田巧先生から「科学的思考力、表現力を高める授業改善のポイント」についてご講演いただいた。

2 今後の課題

教師自身の理科離れ、児童生徒の理科嫌いなど、理科教育は課題が山積している。本県においては、各地域で様々な取組が果敢に実践されているが、さらに、努力が求められている。会員一人一人が理科教育の根幹を見直すことから始めたい。